



JAPAN RESISTOR MFG.CO.,LTD.

株式会社 日本抵抗器製作所

第78回 定時株主総会 招集ご通知

| 開催日時 |

令和8年3月30日（月曜日）午後3時

| 開催場所 |

富山県南砺市北野2315番地
当社本店 3階 講堂

| 目 次 |

第78回定時株主総会招集ご通知

株主総会参考書類

第1号議案 剰余金処分の件

第2号議案 補欠監査役1名選任の件

事業報告

連結計算書類

監査報告

計算書類

監査報告

証券コード 6977
令和8年3月13日

株 主 各 位

富山県南砺市北野2315番地
株式会社 日本抵抗器製作所
代表取締役社長 木 村 準

第78回定時株主総会招集ご通知

拝啓 日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第78回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の以下の各ウェブサイトに掲載しておりますので、いずれかのウェブサイトにアクセスのうえ、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

【株主総会資料 掲載ウェブサイト】
<https://d.sokai.jp/6977/teiiji/>



【当社ウェブサイト】
<https://www.jrm.co.jp/>
（上記ウェブサイトにアクセスいただき、メニューより「会社概要」「財務情報」を順に選択いただき、ご確認ください。）



【東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）】
<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>
（上記の東証ウェブサイトアクセスいただき、「銘柄名（会社名）」に「日本抵抗器製作所」又は「コード」に当社証券コード「6977」を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/P R情報」を順に選択して、「縦覧書類」にある「株主総会招集通知/株主総会資料」欄よりご確認ください。）



なお、当日ご出席されない場合は、インターネット又は書面（郵送）によって議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討のうえ、令和8年3月27日（金曜日）午後5時までに議決権を行使くださいますようお願い申し上げます。

【インターネットによる議決権行使の場合】

本招集ご通知とあわせてお送りする議決権行使書用紙に表示されたログインQRコードの読み取り又は当社指定の議決権行使ウェブサイト（<https://soukai.mizuho-tb.co.jp/>）にアクセスの上、「議決権行使コード」及び「パスワード」をご入力いただき、画面の案内に従って、議案に対する賛否を上記の行使期限までにご入力ください。

インターネットによる議決権行使に際しましては、後記の「インターネットによる議決権行使のご案内」をご確認くださいませようお願い申し上げます。

【書面（郵送）による議決権行使の場合】

議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、上記の行使期限までに到着するようご返送ください。

敬 具

記

1. 日 時 令和8年3月30日（月曜日）午後3時
2. 場 所 富山県南砺市北野2315番地
当社本店3階講堂

3. 会議の目的事項**報告事項**

1. 第78期（令和7年1月1日から令和7年12月31日まで）
事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第78期（令和7年1月1日から令和7年12月31日まで）
計算書類報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金処分の件
- 第2号議案 補欠監査役1名選任の件

4. 招集にあたっての決定事項（議決権行使についてのご案内）

- (1)書面（郵送）により議決権を行使された場合の議決権行使書において、議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとしてお取り扱いいたします。
- (2)インターネットにより複数回、議決権を行使された場合は、最後に行われた議決権行使を有効なものとしてお取り扱いいたします。
- (3)インターネットと書面（郵送）により重複して議決権を行使された場合は、到着日時を問わず、インターネットによる議決権行使を有効なものとしてお取り扱いいたします。

以 上

- ~~~~~
- ◎当日ご出席の際は、お手数ながら本招集ご通知とあわせてお送りする議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
 - ◎電子提供措置事項に修正が生じた場合は、前記インターネット上の各ウェブサイトにおいて、その旨、修正前及び修正後の事項を掲載いたします。
 - ◎本株主総会においては、書面交付請求の有無にかかわらず、一律に電子提供措置事項を記載した書面をお送りいたします。
なお、電子提供措置事項のうち、次の事項につきましては、法令及び当社定款第14条の規定に基づき、お送りする書面には記載しておりません。

- ① 事業報告の「業務の適正を確保するための体制及びその運用状況の概要」
- ② 連結計算書類の「連結注記表」
- ③ 計算書類の「個別注記表」

したがいまして、当該書面に記載している事業報告、連結計算書類及び計算書類は、会計監査人が会計監査報告を、監査役が監査報告を作成するに際して監査をした対象書類の一部であります。



議決権行使についてのご案内

株主総会における議決権は、株主の皆様のご大切な権利です。
株主総会参考書類をご検討のうえ、議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。
議決権を行使する方法は、以下の3つの方法がございます。



株主総会にご出席される場合

本招集ご通知とあわせてお送りする議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。

日 時

令和8年3月30日（月曜日）
午後3時（受付開始：午後2時）



インターネットで議決権を行使される場合

次ページの案内に従って、議案に対する賛否をご入力ください。

行使期限

令和8年3月27日（金曜日）
午後5時入力完了分まで



書面（郵送）で議決権を行使される場合

本招集ご通知とあわせてお送りする議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、ご返送ください。

行使期限

令和8年3月27日（金曜日）
午後5時到着分まで

議決権行使書用紙のご記入方法のご案内

議決権行使書 株主番号 ○○○○○○○○ 議決権の数 XX 股

御中

××××年 ×月××日

1. _____

2. _____

3. _____

4. _____

スマートフォン用
議決権行使
ウェブサイト
ログインQRコード

見本

○○○○○○○

こちらに議案の賛否をご記入ください。

第1・2号議案

- 賛成の場合 >> 「賛」の欄に○印
- 反対する場合 >> 「否」の欄に○印

※議決権行使書用紙はイメージです。

インターネット及び書面（郵送）の両方で議決権行使をされた場合は、インターネットによる議決権行使を有効な議決権行使としてお取り扱いいたします。また、インターネットにより複数回、議決権行使をされた場合は、最後に行なわれたものを有効な議決権行使としてお取り扱いいたします。

インターネットによる議決権行使のご案内

ログインQRコードを読み取る方法 「スマート行使」

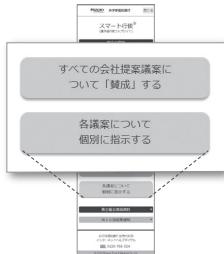
議決権行使コード及びパスワードを入力することなく議決権行使ウェブサイトへログインすることができます。

- 1 議決権行使書右下に記載のQRコードを読み取ってください。



※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

- 2 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。



「スマート行使」での議決権行使は**1回のみ**。

議決権行使後に行使内容を変更する場合は、お手数ですがPC向けサイトへアクセスし、議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」・「パスワード」を入力してログイン、再度議決権行使をお願いいたします。

※QRコードを再度読み取っていただくと、PC向けサイトへ遷移できます。

インターネットによる議決権行使でパソコンやスマートフォンの操作方法などがご不明な場合は、右記にお問い合わせください。

議決権行使コード・パスワードを入力する方法

議決権行使ウェブサイト <https://soukai.mizuho-tb.co.jp/>

- 1 議決権行使ウェブサイトへアクセスしてください。



「次へする」をクリック

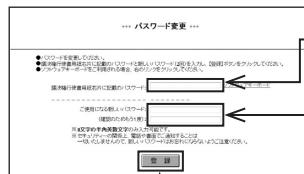
- 2 議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」をご入力ください。



「議決権行使コード」を入力

「次へ」をクリック

- 3 議決権行使書用紙に記載された「パスワード」をご入力ください。



「パスワード」を入力

実際にご使用になる新しいパスワードを設定してください

「登録」をクリック

- 4 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

※操作画面はイメージです。

みずほ信託銀行 証券代行部 インターネットヘルプダイヤル
☎ 0120-768-524
(受付時間 9:00~21:00)

株主総会参考書類

第1号議案 剰余金処分の件

当社は、剰余金の配当につきましては、収益に応じた配当を基本方針としながら、一方で、安定した配当を継続するとともに、会社の競争力を維持強化すべく将来の事業展開に備えた内部留保の充実を勘案して配当することとしており、当期末の配当につきましては、次のとおりといたしたいと存じます。

- (1) 配当財産の種類
金銭
- (2) 配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき10円 総額 12,372,030円
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日
令和8年3月31日

第2号議案 補欠監査役1名選任の件

令和7年3月28日開催の第77回定時株主総会において補欠監査役に選任されました荒井眞一氏より、本総会開始の時をもって補欠監査役を辞退したい旨の申出がありましたので、第77回定時株主総会の決議に基づき、監査役会の同意を得て、本総会開始の時をもって同氏の補欠監査役選任を取り消すことを取締役会において決議いたしました。

つきましては、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、改めて補欠監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、候補者松岩克之氏は現任の常勤監査役堀井進氏の補欠として選任をお願いするものであり、本選任につきましては、就任前に限り、監査役会の同意を得て、取締役会決議によりその選任を取り消すことができるものとさせていただきます。

また、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

補欠監査役候補者は次のとおりであります。

ふりがな 氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 (重要な兼職の状況)	所有する当社の 株式数
まつ いわ かつ ゆき 松 岩 克 之 (昭和36年10月7日)	平成 2 年 2 月 当社入社 平成 21 年 6 月 ジェイアールエムグループ(株)生産管理部長 平成 23 年 2 月 ジェイアールエムグループ(株)資材生産管理部長	2,000株
(補欠監査役候補者とした理由) 松岩克之氏は、グループ会社の生産管理部門、資材管理部門を担当し生産管理業務、購買業務に関する豊富な経験及び知識を有しており、その立場から当社の経営を監査していただくことが期待できるため補欠監査役候補者といたしました。		

(注) 候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。

以 上

事業報告

(令和7年1月1日から令和7年12月31日まで)

1. 企業集団の現況

(1) 当事業年度の事業の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善などを背景に緩やかな回復基調で推移しております。一方で物価上昇、エネルギー価格の高止まりの状況が続いているほか、海外における地政学リスクの高まり、米国の関税政策、不安定な為替相場による影響など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループにおいては、脱炭素社会に向けた取り組みとして、欧州・東南アジア・中国市場での電気自動車関連向けの電子部品、産業機器市場向けの電子部品の受注拡大に努めるとともに、高い品質、高い信頼性を必要とされる市場への販路拡大を進めております。それと同時に、工程の自動化・省力化によるコスト削減、新製品の開発に努め、収益力の強化に取り組んでまいりました。

その結果、当連結会計年度の売上高は5,905百万円（前期比8.5%減）となりました。新規量産立ち上げのほか顧客での在庫調整が改善傾向にあることなどにより売上増加している製品がある一方で産業機械向け製品において設備投資需要の伸び悩みによる受注減少の状況が継続しているなどの要因により、売上高は前期比減少となりました。

利益面では売上高の減少による減益影響が大きいことに加え、資源・エネルギー価格の高止まり、物価上昇などに伴うコスト増加の動きが継続していること、また、前期に操業開始したタイ国の生産拠点における生産体制構築に伴う費用が当期も引き続き発生していることなどにより、営業損失は109百万円（前期は営業損失133百万円）、経常損失は136百万円（前期は経常損失104百万円）となりました。また、特別利益として投資有価証券売却益47百万円、特別損失として固定資産除却損22百万円、減損損失119百万円、過年度決算訂正関連費用20百万円等を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純損失は376百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失181百万円）となりました。

当社グループにおける製品群別の生産・受注・販売の実績は次のとおりであります。

(生産)

製品群の名称	前連結会計年度 (自 令和6年1月1日 至 令和6年12月31日)	当連結会計年度 (自 令和7年1月1日 至 令和7年12月31日)	前期比 (%)
抵抗器 (千円)	1,610,012	1,314,488	△18.4
ポテンショメーター (千円)	530,556	613,382	15.6
ハイブリッドIC (千円)	1,759,235	1,673,705	△4.9
電子機器 (千円)	1,843,778	1,545,510	△16.2
合計 (千円)	5,743,581	5,147,085	△10.4

(受注高)

製品群の名称	前連結会計年度 (自 令和6年1月1日 至 令和6年12月31日)	当連結会計年度 (自 令和7年1月1日 至 令和7年12月31日)	前期比 (%)
抵抗器 (千円)	1,667,731	1,699,958	1.9
ポテンショメーター (千円)	633,041	852,029	34.6
ハイブリッドIC (千円)	1,566,724	1,932,121	23.3
電子機器 (千円)	1,832,826	1,786,696	△2.5
合計 (千円)	5,700,322	6,270,804	10.0

(受注残高)

製品群の名称	前連結会計年度 (自 令和6年1月1日 至 令和6年12月31日)	当連結会計年度 (自 令和7年1月1日 至 令和7年12月31日)	前期比 (%)
抵抗器 (千円)	151,797	225,471	48.5
ポテンショメーター (千円)	70,139	135,091	92.6
ハイブリッドIC (千円)	741,850	857,129	15.5
電子機器 (千円)	401,639	512,597	27.6
合計 (千円)	1,365,425	1,730,288	26.7

(販売実績)

製品群の名称	前連結会計年度 (自 令和6年1月1日 至 令和6年12月31日)		当連結会計年度 (自 令和7年1月1日 至 令和7年12月31日)		前期比 (%)
抵抗器 (千円)	1,915,632		1,626,284		△15.1
ポテンショメーター (千円)	662,895		787,077		18.7
ハイブリッドIC (千円)	1,862,630		1,816,842		△2.5
電子機器 (千円)	2,013,493		1,675,738		△16.8
合計 (千円)	6,454,650		5,905,941		△8.5

また、顧客の地域別売上高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 令和6年1月1日 至 令和6年12月31日)		当連結会計年度 (自 令和7年1月1日 至 令和7年12月31日)		増減	
	売上高(千円)	構成比 (%)	売上高(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	増減率 (%)
日本	5,402,548	83.7	4,692,252	79.4	△710,295	△13.1
欧州	263,000	4.1	321,093	5.4	58,093	22.1
アジア	774,440	12.0	866,359	14.7	91,918	11.9
南北アメリカ	12,502	0.2	20,151	0.3	7,648	61.2
その他	2,159	0.0	6,085	0.1	3,926	181.9
計	6,454,650	100.0	5,905,941	100.0	△548,708	△8.5

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 設備投資の状況

当連結会計年度の設備投資額は1億2千6百万円であり、主な内容は工場電気設備の更新及び生産設備の購入であります。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(3) 資金調達の状況

特記すべき事項はありません。

(4) 対処すべき課題

今後につきましては、国内経済は引き続き回復基調が継続することが予想されますが、一方で海外における地政学リスクの高まり、米国の関税政策、不安定な為替相場による影響など先行きは依然として不透明な状況が続くものと予想しております。

また、燃料・原材料価格の高騰に加え、物流コスト上昇、円安による物価、海外生産コスト上昇など製造業を取り巻く環境としましては厳しい状況となっております。

当社グループとしましては、適正な利益水準を確保するため、コスト上昇分を適切に販売価格に転嫁すると同時に、製造現場の改善・改革を進め、グループ各社の総力を結集して一層のコスト削減に取り組んでまいります。そして、高付加価値商品を生み出すべく、商品開発力や営業力を強化し、収益力の強化に努めてまいります。

(生産部門)

エレクトロニクス業界は、価格競争が厳しく、コスト競争力をつけることが最重要課題であり、コスト低減の取り組みはもちろん、生産工程における自動化、省人化を図り作業スキル向上と多能工化を進め、品質管理の充実をめざしていく事が重要な経営課題になっております。

国内生産拠点のほか、中国の解亜園（上海）電子製造有限公司（現地法人）、タイのJRM (Thailand) Co., Ltd.（現地法人）を含めた生産体制にて、顧客ニーズに応じた製品の生産、供給を行ってまいります。

(研究開発部門)

顧客ユーザーが求める要求仕様の実現と商品付加価値向上を商品開発の基本方針として取り組んでおります。商品開発の企画段階から顧客ニーズの掘り起こしを行うことで自動車、産業機器、建設機械、電機、通信など幅広い分野に製品を提供しております。新しい分野への挑戦を続け、時代の変化をフレキシブルにつかみ、新たなテクノロジーを生み出し、技術革新を進めてまいります。

(海外事業展開)

販売拠点として中国の上海JRM有限公司（現地法人）を中国、欧州、アジア地域への展開を進める主要な拠点とし、タイ現地法人をASEAN地域での自動車及び産業用電子機器の販売拡大拠点として展開しております。当社グループは各国に広がるローカルパートナーのネットワークを駆使し、オンタイムデリバリーとクオリティコントロールを実現し、安定した製品の提供を進めてまいります。

何卒、より一層のご理解とご支援を賜ります様、お願い申し上げます。

(5) 財産及び損益の状況

区 分	第75期 (令和4年12月期)	第76期 (令和5年12月期)	第77期 (令和6年12月期)	第78期 (当連結会計年度) (令和7年12月期)
売上高(千円)	7,206,292	7,166,897	6,454,650	5,905,941
経常利益又は経常損失 (△)(千円)	262,740	139,027	△104,367	△136,416
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	79,505	51,341	△181,411	△376,511
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)(円)	64.25	41.50	△146.63	△304.33
総資産(千円)	7,587,316	7,642,743	7,729,475	7,208,878
純資産(千円)	1,951,697	2,036,132	1,898,333	1,654,746
1株当たり純資産額(円)	1,273.98	1,314.01	1,218.38	946.07

(注) 1. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)は、自己株式を控除した期中平均発行済株式総数により、1株当たり純資産額は自己株式を控除した期末発行済株式総数により算出しております。

2. 第75期及び第76期の各数値については、過年度決算訂正を反映した数値を記載しております。

(6) 重要な親会社及び子会社の状況ならびに企業結合等の状況

① 親会社の状況

該当事項はありません。

② 重要な子会社

社 名	資 本 金	出 資 比 率	主 な 事 業 内 容
	百万円	%	
日本抵抗器販売株式会社	50	60.0 (60.0)	電子機器、電子部品の販売

(注) 出資比率割合の()は間接所有割合の内数となっております。

(7) 主要な事業内容（令和7年12月31日現在）

下記製品の製造及び販売

- 抵抗器 自動車、農業機器、住設機器、昇降機、
電源機器、医療機器、家電 等
- ポテンショメーター 自動車、建設機械、農業機器 等
- ハイブリッドIC 自動車、空調機器、電源機器、医療機器、家電 等
- 電子機器 自動車、空調機器、住設機器、農業機器 等

(8) 主要な事業所及び工場（令和7年12月31日現在）

- ① 当社
本社： 富山県南砺市北野2315番地
富山工場： 富山県南砺市北野2315番地
- ② 主要な子会社の事業所
国内： 日本抵抗器販売株式会社
東京都品川区南大井3丁目6番20号
海外： 解亜園(上海)電子製造有限公司
中国上海松江出口加工区茸翔路8号標準廠房第3、4棟

(9) 使用人の状況（令和7年12月31日現在）

- ① 企業集団の使用人の状況302（121）名（前期比 △27（△9）名）
(注) 1. 使用人数は就業員数であり、パート及び嘱託社員は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 当社グループは電子部品の製造・販売及び付帯業務の単一セグメントであるため、セグメント別の記載はしていません。
- ② 当社の使用人の状況

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
45（0）名	△1（-）名	43.4歳	16.3年

(注) 使用人数は就業員数であり、パート及び嘱託社員は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(10) 主要な借入先の状況（令和7年12月31日現在）

借入先	借入金残高
株式会社北陸銀行	533,790千円
株式会社横浜銀行	530,150
株式会社富山第一銀行	408,390
株式会社富山銀行	403,452
株式会社大分銀行	366,526
株式会社みずほ銀行	346,704

2. 会社の現況

(1) 株式の状況（令和7年12月31日現在）

- ① 発行可能株式総数 2,000,000株
- ② 発行済株式の総数 1,240,000株
- ③ 株主数 1,557名
- ④ 大株主の状況（上位10名）

株主名	持株数	持株比率
木村 準	106,500株	8.608%
永山 敬健	61,600株	4.978%
日本抵抗器関連会社従業員持株会	60,862株	4.919%
いずも産業株式会社	48,700株	3.936%
今井 芳範	40,163株	3.246%
日抵従業員持株会	39,854株	3.221%
松原 明男	39,200株	3.168%
株式会社富山銀行	36,200株	2.925%
株式会社富山第一銀行	31,100株	2.513%
日本抵抗器取引先持株会	31,075株	2.511%

(注) 持株比率は自己株式（2,797株）を控除して計算しております。

(2) 新株予約権等の状況

該当事項はありません。

(3) 会社役員 の 状況

① 取締役及び監査役の状況 (令和7年12月31日現在)

会社における地位	氏名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	木村 準	
取締役	今井 治	株式会社今井機業場相談役
取締役	今井 芳 範	シーエスフィールド株式会社代表取締役
取締役	愛山 良 信	
取締役	森 悦 夫	
取締役	橋 爪 道 也	
取締役	魚 孝 浩	
常勤監査役	堀 井 進	
監査役	堀 越 直 子	
監査役	白 田 幸 春	
監査役	石 崎 武	

- (注) 1. 取締役のうち今井 治氏、今井芳範氏は社外取締役であります。
2. 監査役のうち堀越直子氏、白田幸春氏、石崎 武氏は社外監査役であります。
3. 当社は、今井 治氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

② 取締役及び監査役の報酬等

イ. 役員報酬等の内容の決定に関する方針等

当社は、令和3年2月18日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針を決議しております。また、取締役会は、当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方法及び決定された報酬等の内容が当該決定方針と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針の内容は次のとおりです。

a. 基本方針

当社の取締役の報酬は基本報酬のみとしており、役位と経営環境等を総合的に勘案して決定することを基本方針としております。

b. 基本報酬に関する方針

当社の取締役の基本報酬は、金銭による月額固定報酬としております。決定方法としましては、代表取締役が社外取締役、社外監査役の意見を聴取した上で、株主総会で決議された報酬限度額の範囲内で取締役会に原案を提示し、取締役会の決議で決定しております。

ロ. 当事業年度に係る報酬等の総額等

区 分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	業績連動 報酬等	非金銭 報酬等	
取 締 役 (うち社外取締役)	26,400 (1,200)	26,400 (1,200)	— (—)	— (—)	5 (2)
監 査 役 (うち社外監査役)	3,600 (2,400)	3,600 (2,400)	— (—)	— (—)	4 (3)
合 計 (うち社外役員)	30,000 (3,600)	30,000 (3,600)	— (—)	— (—)	9 (5)

- (注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
 2. 当期末の取締役の員数は7名、監査役の員数は4名であります。上記の取締役の員数と相違しておりますのは、無報酬の取締役2名を含んでいるためであります。

ハ. 取締役及び監査役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役の報酬等の額については、昭和57年3月20日開催の第34回定時株主総会において、取締役の報酬限度額は年額60,000千円以内（但し、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない。）とすることを決議しております。なお、当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は12名であります。

監査役の報酬等の額については、昭和57年3月20日開催の第34回定時株主総会において、監査役の報酬限度額は年額18,000千円以内とすることを決議しております。なお、当該定時株主総会終結時点の監査役の員数は2名であります。

③ 社外役員に関する事項

イ. 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

- ・社外取締役今井治氏は、株式会社今井機業場の相談役であります。株式会社今井機業場と当社の間には特別な関係はありません。
- ・社外取締役今井芳範氏は、シーエスフィールド株式会社の代表取締役であります。シーエスフィールド株式会社と当社の間には特別な関係はありません。

ロ. 当事業年度における主な活動状況

	出席状況、発言状況及び 社外取締役に期待される役割に関して行った職務の概要
社外取締役 今井 治	当期開催の取締役会16回のうち16回出席いたしました。経営者としての経験及び知見により独立した立場から取締役会の相互監督機能を強化し、公正かつ的確な助言を行っており、主に他業種の動向等についての発言を行うなど適切に役割を果たしております。
社外取締役 今井芳範	当期開催の取締役会16回のうち16回出席いたしました。経営者としての経験及び知見により独立した立場から取締役会の相互監督機能を強化し、公正かつ的確な助言を行っており、主に国内の市場動向等についての発言を行うなど適切に役割を果たしております。
社外監査役 堀越直子	当期開催の取締役会16回のうち15回出席し、また当期開催の監査役会13回のうち13回出席いたしました。財務および会計に関する知見を有し、海外経験もあり、幅広い知識を有しており、主に海外の情報についての発言を行っております。
社外監査役 白田幸春	当期開催の取締役会16回のうち16回出席し、また当期開催の監査役会13回のうち13回出席いたしました。中国、A S E A Nマーケットにおける電機メーカーの市場動向に詳しく豊富な経験を有しており、主に国内の情報についての発言を行っております。
社外監査役 石崎 武	当期開催の取締役会16回のうち16回出席し、また当期開催の監査役会13回のうち13回出席いたしました。企業経営に関わりを持った豊富な経験、知見を有しており、主に国内の情報についての発言を行っております。

(4) 会計監査人の状況

- ① 名称
仰星監査法人
- ② 報酬等の額

	支 払 額
公認会計士法第2条第1項の業務に係る報酬等の額	40,645千円
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭 その他の財産上の利益の合計額	40,645千円

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を区分していないため、これらの合計金額を記載しております。なお、報酬等の額には当社の過年度決算訂正に係る監査業務に対する報酬16,645千円を含んでおります。
2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて検討を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

- ③ 非監査業務の内容
該当事項はありません。

④ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定し、取締役会は、当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提出いたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

連結貸借対照表

(令和7年12月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
流 動 資 産	5,154,112	流 動 負 債	3,625,089
現金及び預金	1,662,037	支払手形及び買掛金	485,690
売掛金	962,357	電子記録債務	350,722
電子記録債権	464,486	短期借入金	2,425,316
商品及び製品	321,367	1年内償還予定の社債	100,000
仕掛品	52,425	リース債務	25,400
原材料及び貯蔵品	1,569,322	未払法人税等	31,945
未収入金	131,419	受注損失引当金	3,638
その他	37,507	その他	202,376
貸倒引当金	△46,810	固 定 負 債	1,929,042
固 定 資 産	2,054,736	長期借入金	1,492,878
有 形 固 定 資 産	1,373,917	リース債務	68,660
建物及び構築物	2,032,755	退職給付に係る負債	293,488
機械装置及び運搬具	1,687,224	繰延税金負債	67,311
工具、器具及び備品	976,926	資産除去債務	6,704
土地	285,870	負 債 合 計	5,554,132
リース資産	53,999	純 資 産 の 部	
建設仮勘定	1,942	株 主 資 本	743,337
減価償却累計額	△3,664,801	資本金	724,400
無 形 固 定 資 産	9,521	資本剰余金	207,448
投 資 そ の 他 の 資 産	671,296	利益剰余金	△184,492
投資有価証券	479,767	自己株式	△4,017
繰延税金資産	16,088	その他の包括利益累計額	427,141
長期未収入金	156,200	その他有価証券評価差額金	133,724
その他	175,440	為替換算調整勘定	293,417
貸倒引当金	△156,200	非支配株主持分	484,266
繰 延 資 産	29	純 資 産 合 計	1,654,746
資 産 合 計	7,208,878	負 債 純 資 産 合 計	7,208,878

連結損益計算書

(令和7年1月1日から
令和7年12月31日まで)

科 目	金 額	千円	千円
売上高			5,905,941
売上原価			4,637,561
売上総利益			1,268,380
販売費及び一般管理費			1,378,204
営業損失			△109,824
営業外収益			
受取利息	2,540		
受取配当金	9,956		
不動産賃貸料	42,059		
為替差益	12,120		
その他	10,920		77,596
営業外費用			
支払利息	73,966		
貸資産減価償却費	17,203		
その他	13,019		104,188
経常損失			△136,416
特別利益			
固定資産売却益	43		
投資有価証券売却益	47,175		
貸倒引当金戻入益	1,500		48,718
特別損失			
固定資産除却損	22,184		
投資有価証券評価損	964		
減損	119,907		
過年度決算訂正関連費用	20,885		163,940
税金等調整前当期純損失			△251,637
法人税、住民税及び事業税	47,320		
法人税等調整額	41,211		88,532
当期純損失			△340,170
非支配株主に帰属する当期純利益			36,341
親会社株主に帰属する当期純損失			△376,511

連結株主資本等変動計算書

(令和7年1月1日から
令和7年12月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産計
	資本金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自己株式	株主資本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	為 替 換 算 調 整 勘 定	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
令和7年1月1日残高	724,400	207,448	229,135	△4,017	1,156,965	66,190	284,225	350,415	390,952	1,898,333
当連結会計年度 中の変動額										
剰余金の配当			△37,116		△37,116					△37,116
親会社株主に帰属 する当期純損失			△376,511		△376,511					△376,511
株主資本以外の項目の 当連結会計年度中の 変動額（純額）						67,533	9,192	76,726	93,314	170,040
当連結会計年度 中の変動額合計	-	-	△413,628	-	△413,628	67,533	9,192	76,726	93,314	△243,587
令和7年12月31日残高	724,400	207,448	△184,492	△4,017	743,337	133,724	293,417	427,141	484,266	1,654,746

連結計算書類に係る会計監査人監査報告

独立監査人の監査報告書

令和8年2月26日

株式会社 日本抵抗器製作所
取締役 会 御中

仰星監査法人
東京事務所

指 定 社 員 公認会計士 許 仁 九
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 中 山 孝 一
業 務 執 行 社 員

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社日本抵抗器製作所の令和7年1月1日から令和7年12月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社日本抵抗器製作所及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結計算書類の監査を計画し実施する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指揮、監督及び査閲に責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

貸借対照表

(令和7年12月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
流 動 資 産	2,878,124	流 動 負 債	1,901,718
現金及び預金	497,111	支払手形	9,978
売掛金	909,742	買掛金	488,717
電子記録債権	40,000	電子記録債務	262,716
商品及び製品	93,088	短期借入金	670,000
仕掛品	11,499	1年内返済予定の長期借入金	301,646
原材料及び貯蔵品	975,098	1年内償還予定の社債	100,000
未収入金	325,369	未払金	16,942
前払費用	3,773	未払費用	3,241
1年内回収予定の関係会社長期貸付金	31,416	未払法人税等	17,538
その他の	358	未払消費税等	991
貸倒引当金	△9,332	預り金	3,297
固 定 資 産	1,009,544	前受収益	1,896
有 形 固 定 資 産	348,618	その他の	24,752
建物	339,794	固 定 負 債	618,277
構築物	21,455	長期借入金	483,081
機械及び装置	419,822	退職給付引当金	50,638
車両運搬具	12,352	関係会社事業損失引当金	84,557
工具、器具及び備品	583,618	負 債 合 計	2,519,995
土地	201,433	純 資 産 の 部	
減価償却累計額	△1,229,857	株 主 資 本	1,292,259
無 形 固 定 資 産	1,296	資 本 金	724,400
その他の	1,296	資 本 剰 余 金	131,450
投 資 そ の 他 の 資 産	659,628	資 本 準 備 金	131,450
投資有価証券	177,613	利 益 剰 余 金	440,427
関係会社株式	375,464	利 益 準 備 金	49,649
関係会社長期貸付金	53,522	その他利益剰余金	390,777
繰延税金資産	14,737	繰越利益剰余金	390,777
その他の	61,555	自 己 株 式	△4,017
貸倒引当金	△23,265	評 価 ・ 換 算 差 額 等	75,442
繰 延 資 産	29	その他有価証券評価差額金	75,442
社債発行費	29	純 資 産 合 計	1,367,702
資 産 合 計	3,887,698	負 債 純 資 産 合 計	3,887,698

損益計算書

(令和7年1月1日から
令和7年12月31日まで)

科 目	金 額
売 上 高	千円 3,412,474
売 上 原 価	3,193,974
売 上 総 利 益	218,499
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	187,501
営 業 利 益	30,998
営 業 外 収 益	
受 取 利 息 及 び 受 取 配 当 金	7,267
不 動 産 賃 貸 料	29,078
そ の 他	30,047
66,393	
営 業 外 費 用	
支 払 利 息	23,457
賃 貸 資 産 減 価 償 却 費 等	2,545
為 替 差 損	6,172
そ の 他	1,033
33,208	
経 常 利 益	64,183
特 別 利 益	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	47,175
47,175	
特 別 損 失	
固 定 資 産 除 却 損	0
関 係 会 社 貸 倒 引 当 金 繰 入 額	27,337
関 係 会 社 事 業 損 失 引 当 金 繰 入 額	84,557
過 年 度 決 算 訂 正 関 連 費 用	20,885
132,780	
税 引 前 当 期 純 損 失	△21,421
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	31,271
法 人 税 等 調 整 額	4,357
35,628	
当 期 純 損 失	△57,050

株主資本等変動計算書

(令和7年1月1日から
令和7年12月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本						評価・換算 差 額 等	純資産合計	
	資 本 金	資本剰余金	利 益 剰 余 金			自己株式	株主資本 合 計		
		資本準備金	利益準備金	その他利益 剰 余 金	繰越利益 剰 余 金				利益剰余金 合 計
令和7年1月1日残高	724,400	131,450	49,649	484,944	534,594	△4,017	1,386,426	41,891	1,428,317
当事業年度中の変動額									
剰 余 金 の 配 当				△37,116	△37,116		△37,116		△37,116
当 期 純 損 失				△57,050	△57,050		△57,050		△57,050
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額(純額)								33,551	33,551
当事業年度中の変動額合計	-	-	-	△94,166	△94,166	-	△94,166	33,551	△60,615
令和7年12月31日残高	724,400	131,450	49,649	390,777	440,427	△4,017	1,292,259	75,442	1,367,702

計算書類に係る会計監査人監査報告

独立監査人の監査報告書

令和8年2月26日

株式会社 日本抵抗器製作所
取締役 会 御中

仰星監査法人
東京事務所

指 定 社 員 公認会計士 許 仁 九
業務執行社員

指 定 社 員 公認会計士 中 山 孝 一
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社日本抵抗器製作所の令和7年1月1日から令和7年12月31日までの第78期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査役会監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、令和7年1月1日から令和7年12月31日までの第78期事業年度における取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施いたしました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人仰星監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人仰星監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

令和8年2月27日

株式会社 日本抵抗器製作所 監査役会

常勤監査役 堀 井 進 ㊟

社外監査役 堀 越 直 子 ㊟

社外監査役 白 田 幸 春 ㊟

社外監査役 石 崎 武 ㊟

以 上

定時株主総会会場ご案内図

会場

当社本店 3階講堂

富山県南砺市北野2315番地 TEL (0763) 62-1180

交通

J

R

城端線

| 城端駅より徒歩約10分



UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。